



ストレージ容量を追加しています StorageGRID 11.5

NetApp
April 11, 2024

目次

ストレージ容量を追加しています	1
オブジェクト容量を追加する場合のガイドラインを次に示します	1
レプリケートオブジェクトにストレージ容量を追加しています	3
イレイジャーコーディングオブジェクトのストレージ容量の追加	3
イレイジャーコーディングデータのリバランシングに関する考慮事項	8

ストレージ容量を追加しています

既存のストレージノードがいっぱいになったら、StorageGRID システムのストレージ容量を増やす必要があります。

ストレージ容量を増やすには、まずデータの格納場所を把握し、必要なすべての場所に容量を追加する必要があります。たとえば、オブジェクトデータのコピーを複数のサイトに格納している場合は、各サイトのストレージ容量の拡張が必要になることがあります。

- ["オブジェクト容量を追加する場合のガイドラインを次に示します"](#)
- ["レプリケートオブジェクトにストレージ容量を追加しています"](#)
- ["イレイジャーコーディングオブジェクトのストレージ容量の追加"](#)
- ["イレイジャーコーディングデータのリバランシングに関する考慮事項"](#)

オブジェクト容量を追加する場合のガイドラインを次に示します

StorageGRID システムのオブジェクトストレージ容量を拡張するには、既存のストレージノードにストレージボリュームを追加するか、または既存のサイトに新しいストレージノードを追加します。情報ライフサイクル管理（ILM）ポリシーの要件を満たす方法でストレージ容量を追加する必要があります。

ストレージボリュームの追加に関するガイドラインを次に示します

既存のストレージノードにストレージボリュームを追加する前に、次のガイドラインと制限事項を確認してください。

- 現在の ILM ルールを調べて、ストレージボリュームを追加してレプリケートオブジェクトまたはイレイジャーコーディングオブジェクトに使用できるストレージを増やす場所とタイミングを決定する必要があります。情報ライフサイクル管理を使用してオブジェクトを管理する手順を参照してください。
- オブジェクトメタデータはボリューム 0 にしか格納されないため、ストレージボリュームを追加してシステムのメタデータ容量を増やすことはできません。
- 各ソフトウェアベースのストレージノードでサポートされるストレージボリュームは最大 16 個です。それよりも多くの容量が必要な場合は、新しいストレージノードを追加する必要があります。
- 各 SG6060 アプライアンスには、1 台または 2 台の拡張シェルフを追加できます。各拡張シェルフには、16 個のストレージボリュームが追加されます。両方の拡張シェルフを設置した場合、SG6060 では合計 48 個のストレージボリュームをサポートできます。
- ストレージボリュームを他のストレージアプライアンスに追加することはできません。
- 既存のストレージボリュームのサイズを拡張することはできません。
- ストレージノードへのストレージボリュームの追加は、システムのアップグレードやリカバリの処理や他の拡張と同時に実行することはできません。

ストレージボリュームを追加することにし、ILM ポリシーを満たすために拡張する必要があるストレージノードを決めたら、該当するタイプのストレージノードの手順に従います。

- 拡張シェルフをSG6060ストレージアプライアンスに追加するには、SG6000アプライアンスの設置およびメンテナンス手順を参照してください。

"SG6000 ストレージアプライアンス"

- ソフトウェアベースのノードの場合は、ストレージノードにストレージボリュームを追加する手順に従います。

"ストレージノードへのストレージボリュームの追加"

ストレージノードの追加に関するガイドラインを次に示します

既存のサイトにストレージノードを追加する前に、次のガイドラインと制限事項を確認してください。

- 現在の ILM ルールを調べて、ストレージノードを追加してレプリケートオブジェクトまたはイレイジャーコーディングオブジェクトに使用できるストレージを増やす場所とタイミングを決定する必要があります。
- 1つの拡張手順に追加できるストレージノードは10個までです。
- 単一の拡張手順で複数のサイトにストレージノードを追加することができます。
- 1つの拡張手順で、ストレージノードとその他のタイプのノードを追加できます。
- 拡張手順を開始する前に、リカバリの一環として実行されるデータ修復処理がすべて完了したことを確認する必要があります。リカバリとメンテナンスの手順のデータ修復ジョブを確認する手順を参照してください。
- 拡張の実行前または実行後にストレージノードを削除する必要がある場合は、1つの運用停止ノード手順の10個を超えるストレージノードの運用を停止しないでください。

ストレージノード上のADCサービスについてのガイドラインを参照してください

拡張を設定する場合は、新しい各ストレージノードに Administrative Domain Controller (ADC) サービスを含めるかどうかを選択する必要があります。ADC サービスは、グリッドサービスの場所と可用性を追跡します。

- StorageGRID システムでは、各サイトで ADC サービスのクォーラムが常に利用可能である必要があります。



リカバリとメンテナンスの手順のADCクォーラムに関する情報を参照してください。

- 各サイトで少なくとも3つのストレージノードにADCサービスが含まれている必要があります。
- すべてのストレージノードにADCサービスを追加することは推奨されません。ノード間の通信量が増加しているため、ADCサービスが多すぎると原因の速度が低下する可能性があります。
- 1つのグリッドにADCサービスがあるストレージノードが48個を超えないようにします。各サイトにADCサービスが3つある16のサイトに相当します。
- 一般に、新しいノードの *ADC Service* 設定を選択する場合は、*Automatic* を選択してください。ADCサービスを含む別のストレージノードを新しいノードで置き換える場合にのみ、「*Yes*」を選択します。残りのADCサービスの数が少なすぎるとストレージノードの運用を停止できないため、古いサービスが削除される前に新しいADCサービスが利用可能になります。
- 導入後のノードにADCサービスを追加することはできません。

- 関連情報 *

"ILM を使用してオブジェクトを管理する"

"SG6000 ストレージアプライアンス"

"ストレージノードへのストレージボリュームの追加"

""

"拡張の実施"

レプリケートオブジェクトにストレージ容量を追加しています

環境の情報ライフサイクル管理（ILM）ポリシーに、オブジェクトのレプリケートコピーを作成するルールが含まれている場合は、追加するストレージの量と、新しいストレージボリュームまたはストレージノードの追加先を検討する必要があります。

ストレージを追加する場所については、レプリケートコピーを作成する ILM ルールを確認してください。ILM ルールで複数のオブジェクトコピーが作成される場合は、オブジェクトコピーが作成されるそれぞれの場所にストレージを追加することを検討してください。単純な例として、2 サイトグリッドがあり、各サイトにオブジェクトコピーを 1 つ作成する ILM ルールがある場合は、グリッドの全体的なオブジェクト容量を増やすために各サイトにストレージを追加する必要があります。

パフォーマンス上の理由から、サイト間でストレージ容量と処理能力のバランスを維持することをお勧めします。そのため、この例では、各サイトに同じ数のストレージノードを追加するか、各サイトにストレージボリュームを追加する必要があります。

より複雑な ILM ポリシーで、バケット名などの条件に基づいてオブジェクトを別々の場所に配置するルールや、オブジェクトの場所を一定期間変更するルールが含まれている場合は、拡張に必要なストレージについての分析も似ていますが、より複雑です。

全体的なストレージ容量がどれだけ早く消費されるかを記録しておくこと、拡張に必要なストレージ容量や、追加のストレージ容量が必要になる時期を把握するのに役立ちます。グリッドマネージャを使用して、StorageGRID の監視とトラブルシューティングの手順に従って、ストレージ容量を監視し、グラフ化することができます。

拡張をいつ実施するかを計画するときは、追加のストレージを調達して設置するのにどれくらいの時間がかかるかを考慮する必要があります。

- 関連情報 *

"ILM を使用してオブジェクトを管理する"

"トラブルシューティングを監視します"

レイジャーコーディングオブジェクトのストレージ容量の追加

レイジャーコーディングコピーを作成するルールが ILM ポリシーに含まれている場合

は、新しいストレージの追加場所と新しいストレージを追加するタイミングを計画する必要があります。追加するストレージの量や追加のタイミングによって、グリッドの使用可能なストレージ容量が左右される場合があります。

ストレージ拡張を計画するための最初の手順は、イレイジャーコーディングオブジェクトを作成する ILM ポリシーのルールを調べることです。StorageGRID はイレイジャーコーディングされた各オブジェクト用に `_k+m_fragments` を作成して各フラグメントを別のストレージノードに格納するため、拡張後にイレイジャーコーディングされた新しいデータ用のスペースを少なくとも `-k +m_Storage` ノードに確保する必要があります。イレイジャーコーディングプロファイルでサイト障害から保護されている場合は、各サイトにストレージを追加する必要があります。

追加する必要があるノードの数は、拡張を実施する時点での既存のノードの使用状況によっても異なります。

イレイジャーコーディングオブジェクト用のストレージ容量の追加に関する一般的な推奨事項

詳細な計算を行わない場合は、既存のストレージノードの容量が 70% に達した時点で各サイトに 2 つのストレージノードを追加できます。

この一般的な推奨事項は、単一サイトのグリッドとイレイジャーコーディングによってサイト障害から保護されるグリッドの両方で、広範なイレイジャーコーディングスキームに渡って合理的な結果を提供します。

この推奨事項につながる要因を理解したり、サイトのより正確な計画を作成したりするには、次のセクションを参照してください。状況に応じて最適化されたカスタムの推奨事項については、ネットアップの営業担当者にお問い合わせください。

イレイジャーコーディングオブジェクト用に追加する拡張ストレージノードの数を計算します

イレイジャーコーディングオブジェクトを格納する環境の拡張方法を最適化するには、次の多くの要素を考慮する必要があります。

- イレイジャーコーディングスキームを使用中です
- イレイジャーコーディングに使用されるストレージプールの特徴。各サイトのノードの数と各ノードの空きスペースの量など
- グリッドが以前に拡張されたかどうか（ストレージノードあたりの空きスペースがすべてのノードでほぼ同じでない場合があるため）
- ILM ポリシーの正確な内容。ILM ルールがレプリケートオブジェクトとイレイジャーコーディングオブジェクトの両方を作成するかどうかなど

次の例は、イレイジャーコーディングスキームによる影響、ストレージプール内のノードの数、各ノードの空きスペースの量を把握するのに役立ちます。

同様の考慮事項は、レプリケートデータとイレイジャーコーディングデータの両方を格納する ILM ポリシーの計算、および以前に拡張されたグリッドの計算に影響します。



ここでは、StorageGRID システムにストレージ容量を追加する場合のベストプラクティスを紹介します。推奨される数のノードを追加できない場合は、EC のリバランシングを実行して、イレイジャーコーディングオブジェクトを追加で格納できるようにする必要があります。

"イレイジャーコーディングデータのリバランシングに関する考慮事項"

例1：2+1イレイジャーコーディングを使用する1サイトグリッドを拡張する

この例は、ストレージノードが3つだけのシンプルなグリッドを拡張する方法を示しています。



この例では、簡易化のためにストレージノードを3つだけ使用していますが、使用するストレージノードは3つだけにするのは推奨されません。実際の本番環境のグリッドでは、冗長性を確保するために最低でも $k+m+1$ のストレージノードを使用する必要があります。この例では4つのストレージノード（2+1）に相当します。

以下を想定しています。

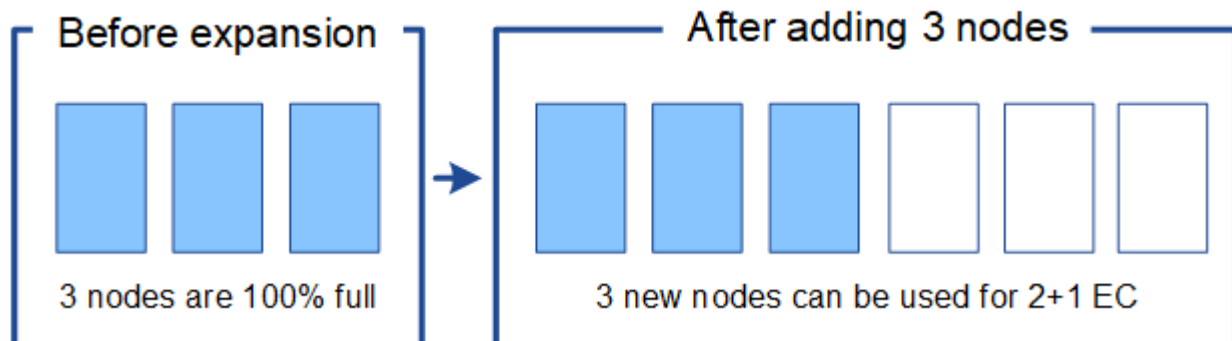
- すべてのデータは 2+1 イレイジャーコーディングスキームを使用して格納されます。2+1 イレイジャーコーディングスキームでは、すべてのオブジェクトが3つのフラグメントとして格納され、各フラグメントが別々のストレージノードに保存されます。
- 1つのサイトに3つのストレージノードがあります。各ストレージノードの総容量は100TBです。
- 新しい100TBのストレージノードを追加して拡張します。
- 最終的には、イレイジャーコーディングされたデータを古いノードと新しいノードに分散したい。

拡張を実施する際のストレージノードの使用状況に応じて、いくつかのオプションがあります。

- * 既存のノードが100%使用されている場合は、100TBのストレージノードを3つ追加します *

この例では、既存のノードが100%フルであることを示します。空き容量がないため、すぐに3つのノードを追加して2+1イレイジャーコーディングを続行する必要があります。

拡張の完了後、オブジェクトがイレイジャーコーディングされると、すべてのフラグメントが新しいノードに配置されます。



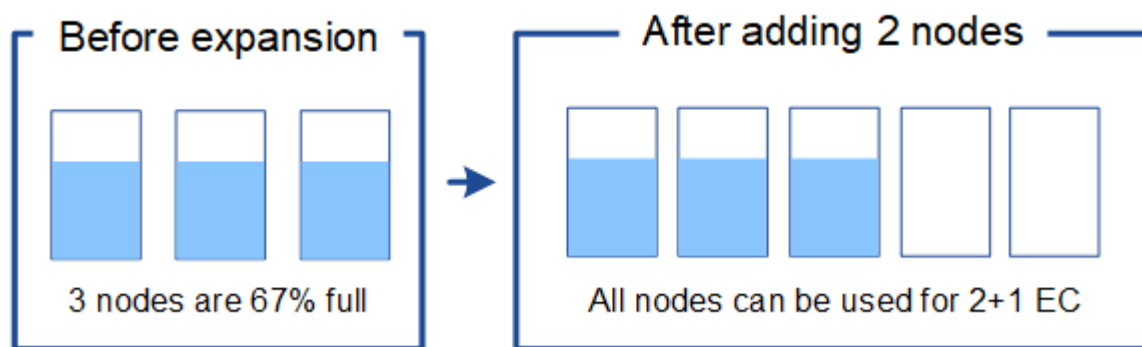


この拡張により、 $-k + m_nodes$ が追加されます。冗長性を確保するために、ノードを4つ追加することを推奨既存のノードが100%フルのときに追加するストレージノードが $_k + m_expansion$ である場合、すべての新しいオブジェクトを拡張ノードに格納する必要があります。一時的にでも使用できなくなった新しいノードがあると、StorageGRID は ILM 要件を満たすことができません。

- * 既存のストレージノードの使用率が 67% になったら、2つの 100TB のストレージノードを追加します *

この例では、既存のノードの使用率は 67% です。既存のノードに 100TB の空き容量がある（ノードあたり 33TB）ため、拡張を実施する場合は、ノードを2つ追加するだけで済みます。

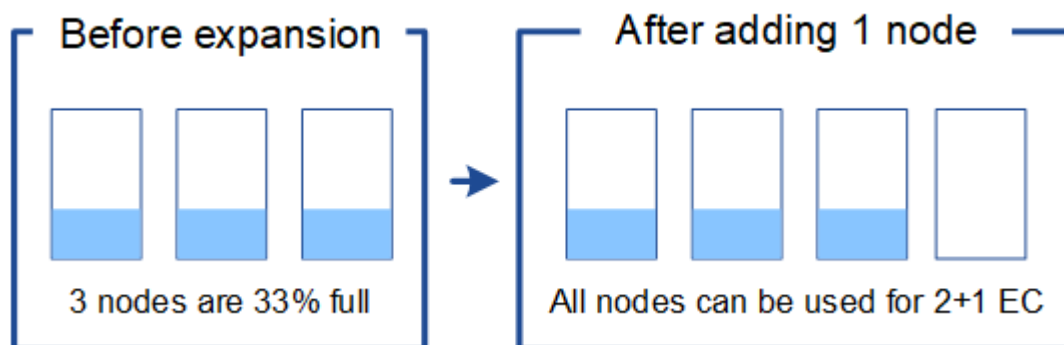
200TB の容量を追加することで、2+1 のイレイジャーコーディングを継続し、最終的にはすべてのノード間でイレイジャーコーディングデータのバランスを取ることができます。



- * 既存のストレージノードの使用率が 33% に達した場合は、100TB のストレージノードを1つ追加してください *

この例では、既存のノードの使用率は 33% です。既存のノードに 200TB の空き容量（各ノードに 67TB）があるため、拡張を実施する場合、ノードを1つ追加するだけで済みます。

100TB の容量を追加することで、2+1 のイレイジャーコーディングを続行し、最終的にはイレイジャーコーディングされたデータをすべてのノードに分散させることができます。



例2：6+3のイレイジャーコーディングを使用する3サイトグリッドを拡張する

この例は、フラグメント数が多いイレイジャーコーディングスキームを含むマルチサイトグリッドの拡張計画を作成する方法を示しています。これらの例の違いにもかかわらず、推奨される拡張計画は非常に似ています。

以下を想定しています。

- すべてのデータは 6+3 イレイジャーコーディングスキームを使用して格納されます。6+3 イレイジャーコーディングスキームでは、すべてのオブジェクトが 9 個のフラグメントとして格納され、各フラグメントが別々のストレージノードに保存されます。
- サイトが 3 つあり、各サイトにストレージノードが 4 つ（合計 12 ノード）ある。各ノードの合計容量は 100TB です。
- 新しい 100TB のストレージノードを追加して拡張します。
- 最終的には、イレイジャーコーディングされたデータを古いノードと新しいノードに分散したい。

拡張を実施する際のストレージノードの使用状況に応じて、いくつかのオプションがあります。

- * 既存のノードが 100% フルの場合は、100TB のストレージノードを 9 つ（サイトごとに 3 つ）追加します *

この例では、12 個の既存ノードが 100% フルであることを確認します。空き容量がないため、6 + 3 のイレイジャーコーディングを続行するには、すぐに 9 つのノード（追加の容量 900 TB）を追加する必要があります。

拡張の完了後、オブジェクトがイレイジャーコーディングされると、すべてのフラグメントが新しいノードに配置されます。



この拡張により、 $-k + m_nodes$ が追加されます。冗長性を確保するために、ノードを 12 個（サイトごとに 4 個）追加することを推奨します。既存のノードが 100% フルのときに追加するストレージノードが $_k + m_expansion$ である場合、すべての新しいオブジェクトを拡張ノードに格納する必要があります。一時的にでも使用できなくなった新しいノードがあると、StorageGRID は ILM 要件を満たすことができません。

- * 既存のノードが 75% フルの場合、6 つの 100TB のストレージノード（サイトごとに 2 つ）を追加します *

この例では、12 個の既存ノードが 75% 使用されています。300TB の空き容量（ノードあたり 25TB）があるため、拡張を実施する場合は、6 つのノードを追加するだけで済みます。3 つのサイトにそれぞれ 2 つのノードを追加します。

600TB のストレージ容量を追加することで、6+3 のイレイジャーコーディングを続行して、最終的にイレイジャーコーディングされたデータをすべてのノードに分散させることができます。

- * 既存のノードが 50% 使用されている場合は、100TB のストレージノードを 3 つ（サイトごとに 1 つ）追加します *

この例では、12 個の既存ノードが 50% 使用されています。600TB の空き容量（ノードあたり 50TB）があるため、拡張を実施する場合は、ノードを 3 つ追加するだけで済みます。3 つのサイトのそれぞれに 1 つのノードを追加します。

300TB のストレージ容量を追加することで、6+3 のイレイジャーコーディングを続行して、イレイジャーコーディングされたデータをすべてのノードに分散できるようになります。

- 関連情報 *

["ILM を使用してオブジェクトを管理する"](#)

"トラブルシューティングを監視します"

"イレイジャーコーディングデータのリバランシングに関する考慮事項"

イレイジャーコーディングデータのリバランシングに関する考慮事項

ストレージノードを追加するために拡張を実行する際に、ILM ポリシーにデータをイレイジャーコーディングするための ILM ルールが 1 つ以上含まれている場合は、拡張完了後に EC のリバランシング手順の実行が必要になることがあります。

たとえば、推奨数のストレージノードを追加できない場合は、ECのリバランシング手順を実行して、イレイジャーコーディングオブジェクトを追加して格納しなければならないことがあります。

EC のリバランシングとは何ですか？

EC のリバランシングは、ストレージノードの拡張後に必要になる可能性がある StorageGRID 手順です。手順は、プライマリ管理ノードからコマンドラインスクリプトとして実行されます。EC Rebalance 手順を実行すると、StorageGRID は、サイト内の既存および新しく拡張されたストレージノード間でイレイジャーコーディングフラグメントを再配分します。

EC Rebalance 手順が実行されるタイミング：

- イレイジャーコーディングされたオブジェクトデータのみを移動します。レプリケートされたオブジェクトデータは移動されません。
- サイト内のデータを再配布します。サイト間でデータを移動することはありません。
- この機能は、サイト内のすべてのストレージノードにデータを再配分します。ストレージボリューム内でデータが再配置されることはありません。

EC Rebalance 手順が完了すると、次のようになります。

- イレイジャーコーディングされたデータは、使用可能なスペースが少ないストレージノードから、使用可能なスペースが多いストレージノードに移動されます。
- EC のリバランシング手順によってレプリケートされたオブジェクトコピーが移動されないため、ストレージノード間で使用済み（%）値が異なるままになることがあります。
- イレイジャーコーディングオブジェクトのデータ保護は変更されません。

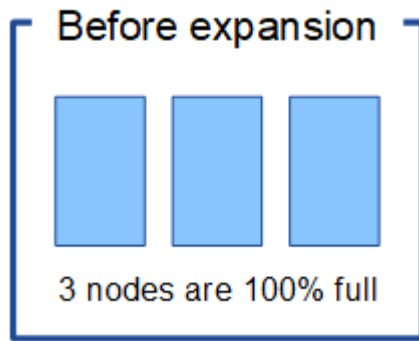
EC のリバランシング手順が実行されている場合、ILM 処理と S3 および Swift クライアント処理のパフォーマンスに影響する可能性があります。そのため、この手順は限られた場合にのみ実行してください。

EC のリバランシングを実行しない場合

EC のリバランシングを実行する必要がない状況の例としては、次の点を考慮してください。

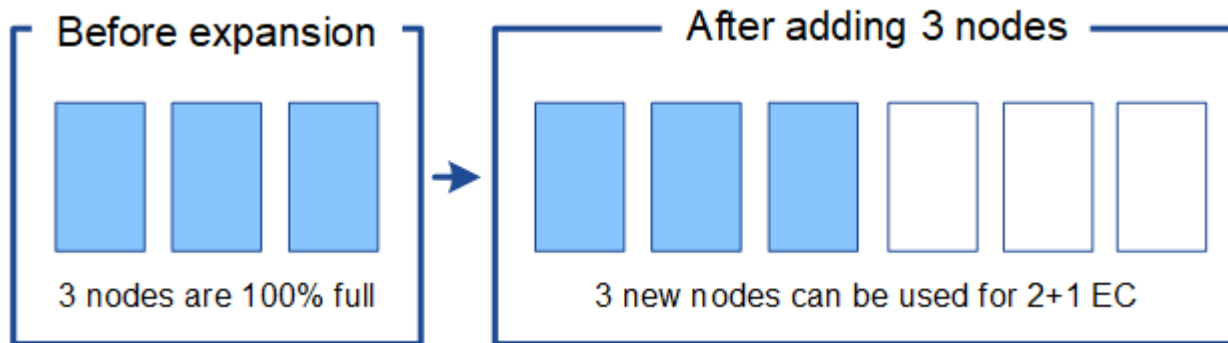
- StorageGRID は、3 つのストレージノードで構成される単一サイトで実行されています。
- ILM ポリシーでは、0.2MB を超えるすべてのオブジェクトに 2+1 のイレイジャーコーディングルールを使用し、サイズの小さいオブジェクトには 2-copy レプリケーションルールを使用します。

- すべてのストレージノードがいっぱいになり、Major 重大度レベルで * Low Object Storage * アラートがトリガーされています。推奨される方法は、拡張手順 を実行してストレージノードを追加することです。



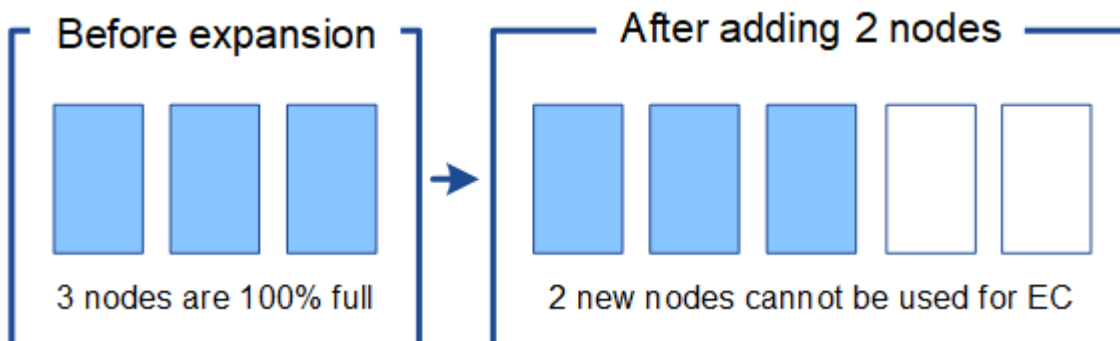
この例でサイトを拡張するには、新しいストレージノードを3つ以上追加することを推奨します。StorageGRID では、2つのデータフラグメントと1つのパリティフラグメントを別々のノードに配置できるように、2+1 イレイジャーコーディング用に3つのストレージノードが必要です。

3つのストレージノードを追加したあとも、元のストレージノードはいっぱいになりますが、オブジェクトは引き続き新しいノード上の2+1 イレイジャーコーディングスキームに取り込むことができます。この場合、EC Rebalance 手順 を実行することは推奨されません。手順 を実行すると、パフォーマンスが一時的に低下し、クライアントの処理に影響する可能性があります。

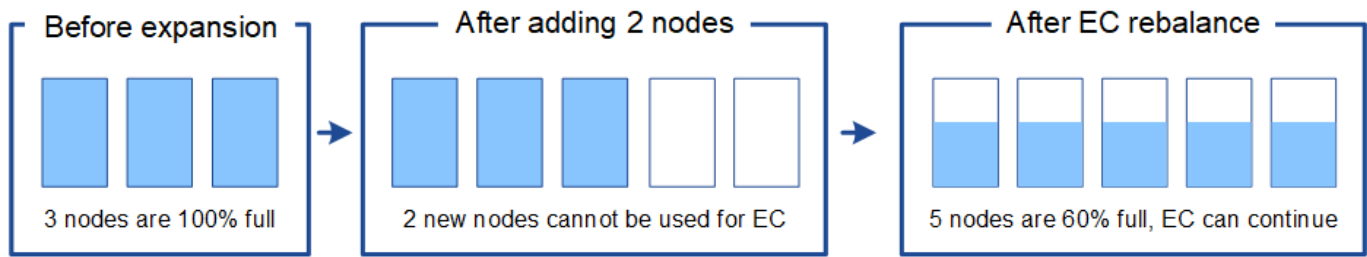


ECのリバランシングを実行するタイミング

ECのリバランシングを行う手順の例としては、同じ例を考えてみてください。ただし、ストレージノードを2つしか追加できないとします。2+1 イレイジャーコーディングには少なくとも3つのストレージノードが必要であるため、新しいノードをイレイジャーコーディングデータに使用することはできません。



この問題を解決して新しいストレージノードを利用するには、EC Rebalance 手順 を実行します。この手順を実行すると、StorageGRID によって、イレイジャーコーディングされたデータフラグメントとパリティフラグメントがサイト内のすべてのストレージノードに再配分されます。この例では、EC Rebalance 手順 が完了すると、5つのノードすべてが60%フルになり、すべてのストレージノード上の2+1 イレイジャーコーディングスキームにオブジェクトを引き続き取り込むことができます。



ECのリバランシングに関する考慮事項

一般に、EC Rebalance 手順 は限られた場合にのみ実行してください。具体的には、次の条件がすべて当てはまる場合にのみ EC のリバランシングを実行する必要があります。

- オブジェクトデータにイレイジャーコーディングを使用します。
- Low Object Storage * アラートがトリガーされました。このアラートは、ノードが 80% 以上フルであることを示します。
- 使用中のイレイジャーコーディングスキームに推奨される数の新しいストレージノードを追加することはできません。

"イレイジャーコーディングオブジェクトのストレージ容量の追加"

- S3 / Swift クライアントは、EC のリバランシング手順 が実行されている間の書き込み処理と読み取り処理のパフォーマンスの低下を許容できます。

ECのリバランシング手順 が他のメンテナンスタスクと連携する仕組み

特定のメンテナンス手順を、EC Rebalance 手順 の実行中に同時に実行することはできません。

手順	EC のリバランシングで許可される手順 ?
追加の EC リバランシング手順	いいえ 一度に実行できる EC のリバランシング手順 は 1 つだけです。
手順 の運用を停止 EC データの修復ジョブ	いいえ <ul style="list-style-type: none"> • EC Rebalance 手順 が実行されている間は、手順 または EC データの修復の運用を停止することはできません。 • ストレージノードが手順 を運用停止したり、EC データの修復が実行されている間は、EC のリバランシング手順 を開始できません。

手順	EC のリバランシングで許可される手順 ?
Expansion 手順 の略	いいえ 拡張時に新しいストレージノードを追加する必要がある場合は、すべての新しいノードを追加するまで、EC Rebalance 手順 を実行します。新しいストレージノードの追加時に EC Rebalance 手順 が進行中の場合、それらのノードにデータは移動されません。
手順 をアップグレードします	いいえ StorageGRID ソフトウェアをアップグレードする必要がある場合は、EC Rebalance 手順 を実行する前または実行したあとにアップグレード 手順 を実行する必要があります。必要に応じて、ソフトウェアアップグレードを実行するために EC Rebalance 手順 を終了できます。
アプライアンスノードのクローン 手順	いいえ アプライアンスストレージノードをクローニングする必要がある場合は、新しいノードを追加してから EC 手順 のリバランシングを実行する必要があります。新しいストレージノードの追加時に EC Rebalance 手順 が進行中の場合、それらのノードにデータは移動されません。
Hotfix 手順 の略	はい。 StorageGRID ホットフィックスは、EC Rebalance 手順 の実行中に適用できます。
その他のメンテナンス手順	いいえ 他のメンテナンス手順を実行する前に、EC Rebalance 手順 を終了する必要があります。

ECのリバランシングが行われる手順 とILMの相互作用

EC のリバランシング手順 を実行している間は、ILM を変更して既存のイレイジャーコーディングオブジェクトの場所が変更されないようにしてください。たとえば、別のイレイジャーコーディングプロファイルを持つ ILM ルールは使用しないでください。このよう手順 な ILM の変更が必要になった場合は、EC のリバランシングを中止します。

関連情報

["ストレージノードの追加後におけるイレイジャーコーディングデータのリバランシング"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。